

E(希望ヶ丘)	希望ヶ丘	舞岡	金井	上郷	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		12-8	11-3	1-8	2	5	2
舞岡	8-12		9-10	1-6	0	-10	4
金井	3-11	10-9		0-12	1	-19	3
上郷	8-1	6-1	12-0		3	24	1

平成16年度(2004)秋季県大会

【1回戦】9月4日 等々力球場

希望ヶ丘 1 0 1 0 2 0 0 0 | 4

金沢 3 1 0 0 0 3 3 1 | 11

(8回コールド)

(希)内田、大橋 - 西沢

(金)高橋 - 香原

▽三塁打 西沢(希)神保、松尾、高橋(金)

▽二塁打 内田、大橋(希)



平成17年度(2005)春季地区予選

H(希望ヶ丘)	希望ヶ丘	瀬谷	横浜旭陵	永谷	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		4-2	21-4	7-0	3	26	1
瀬谷	2-4		24-1	13-6	2	28	2
横浜旭陵	4-21	1-24		0-18	0	-52	4
永谷	0-7	6-13	18-0		1	4	3

平成17年度(2005)春季県大会

【1回戦】4月9日 桜丘高

磯子 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

希望ヶ丘 0 1 5 0 0 0 0 1x | 7

(磯)小田切 - 佐々木

(希)内田 - 富田

▽本塁打 和路(希)

▽二塁打 岡田(磯)向後(希)

【2回戦】4月10日 日大高

横浜翠嵐 0 1 0 3 1 0 0 1 0 | 6

希望ヶ丘 3 0 0 0 2 0 1 1 x | 7

(翠)月森 - 野呂田

(希)大橋 - 椎野

▽本塁打 西澤(希)

▽三塁打 倉橋(翠)松本(希)

▽二塁打 野呂田、大竹(翠)西澤、大橋(希)

【3回戦】4月16日 平塚学園高

平塚学園 0 0 0 0 0 0 0 3 1 | 4

希望ヶ丘 0 0 0 0 0 0 0 0 0 | 0

(平)石井、上野 - 今尾、小倉

(希)大橋 - 椎野

▽二塁打 河西、靱山(平)



第87回全国高校野球選手権神奈川大会

【2回戦】7月14日 横須賀スタジアム

試合時間2時間49分

希望ヶ丘 0 0 1 0 0 0 0 3 0 | 4

緑ヶ丘 0 0 0 0 0 0 1 2 2x | 5

(希)内田、大橋-富田、椎野

(緑)伊藤、渡辺-能見

▽三塁打 椎野、富田(希) ▽二塁打 和路允、泉(希) ▽犠打 希4(松本2、泉、大村)緑3(矢野、藤本、林)

▽盗塁 希2(和路允、板垣)緑0 ▽失策 希1(大村)緑0 ▽暴投 伊藤(緑)、大橋(希)

▽捕逸 椎野(希)

この度は野球部創部120周年及び記念式典の開催、誠にありがとうございます。また記念式典の開催にあたりご尽力頂いたOB会の皆様誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの関係で記念式典は一年延期されましたが、2023年に入りようやく少し落ち着きを見せ、以前のようにリアルでの交流の場が復活しつつあることは大変喜ばしいことだと思っています。

資料集発行につき、僭越ながらK-58を代表して、一言寄稿させていただきます。

私がK-58の主将をしていたのは今から18年前になります。当時は3学年で40人を超える大所帯で、基本的に休みはなく平日の厳しい練習に加え、土日はAチーム、Bチームに分かれて練習試合に遠征するなど、3年間野球漬けの毎日でした。

当時は監督の吉野先生、顧問の大久保先生、コーチの福島さんや、先輩の高橋さん、竜三さんなど多くの指導者、先輩方に恵まれました。時には厳しいソックや叱咤激励を受けることもありましたが、それが礎となり社会人となった今ではちょっとの事ではへこたれない、強い人間になれたと自負しています。

当時を振り返り今でも鮮明に覚えているのは、3年夏大会1回戦の横浜緑ヶ丘戦です。

終始試合を有利に進めるも横須賀球場の人口芝に嫌われ、ランナー1塁からのエンタイトルツーベースで無得点や、打ち取った内野ゴロがセカンドの頭をワンバウンドで越えるヒットなど、運を味方につけられず、結局8回、9回に2点ずつ取られて4-5でサヨナラ負けでした。

試合後、いつもは厳しい吉野先生から「こんな所で負けるチームじゃない。内容も良い試合だった。」と言葉を頂き、チーム全員で涙したことは今となっては良い思い出です。

それから18年経ちますが、当時の仲間とは今でもゴルフや飲み会など定期的な交流が続いており、一生の宝物ができた高校野球生活でした。

結びになりますが、近年の子供の野球離れも相まって部員数も私の現役の頃と比べると少し寂しい状況にはなりますが、見る人に感動を与える高校野球の素晴らしさは変わりません。

将来、希望ヶ丘野球部がもっと盛んになり、いつの日か2度目の甲子園出場を果たす日を夢見て応援しています。

追伸

2023年WBCでの大谷選手を始めとする日本チームの活躍もあり、これまで全くもって野球に興味の無かった息子(小2)が野球をやりたいと言い出し、キャッチボールやバッティングをするようになりました。高校野球に関わった者として、今後は次の世代に野球の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

K58 和路允宏